

第 1 回 美山川やすらぎの川づくり検討委員会

説明資料

平成 20 年 10 月 30 日

京都府 南丹土木事務所

1. 由良川の概要

流域及び河川の概要

由良川は、その源を京都、福井、滋賀の3府県の境をなす三国岳（標高959m）に発し、棚野川、高屋川、上林川をはじめとする支川を合わせながら東から西に流下し、福知山市において土師川が合流したのち大きく湾曲して流路を北東に変え、舞鶴市と宮津市との市境において日本海に注ぐ、幹川流路延長146km、流域面積1,880km²の一級河川である。

由良川上流域は、由良川（京都府管理区間：新綾部大橋から上流約700m地点から上流区間）とその支川38河川からなる流域面積798.9km²の圏域であり、由良川流域全体の約4割強を占め、3市1町（京都市、綾部市、南丹市、京丹波町）にまたがっている。流域の約7割は山地が占め、由良川沿川に発達した河岸段丘や、高屋川流域の丹波高原など残り3割が平地となっている。また、流域の東南部では由良川水系と淀川水系の分水嶺の一部が幅700mの平坦な谷中分水界となっており、かつては現在の淀川水系の一部の河川が、由良川に注いでいたことを物語る特徴的な地形を示している。流域の地質は、古生代から中生代（2億5千万年前～1億5千万年前）に形成され、硬く固結した丹波帯が広く分布している。植生は、流域内の比較的標高部にはコナラ、アカマツ群落が広がり、高標高部にはスギ等が見られる。さらに、由良川上流部の芦生原生林をはじめ、上林川や上和知川の上流には国によって指定された学術上重要な特定植物群落もあり、自然豊かで貴重な植生が広がっている。

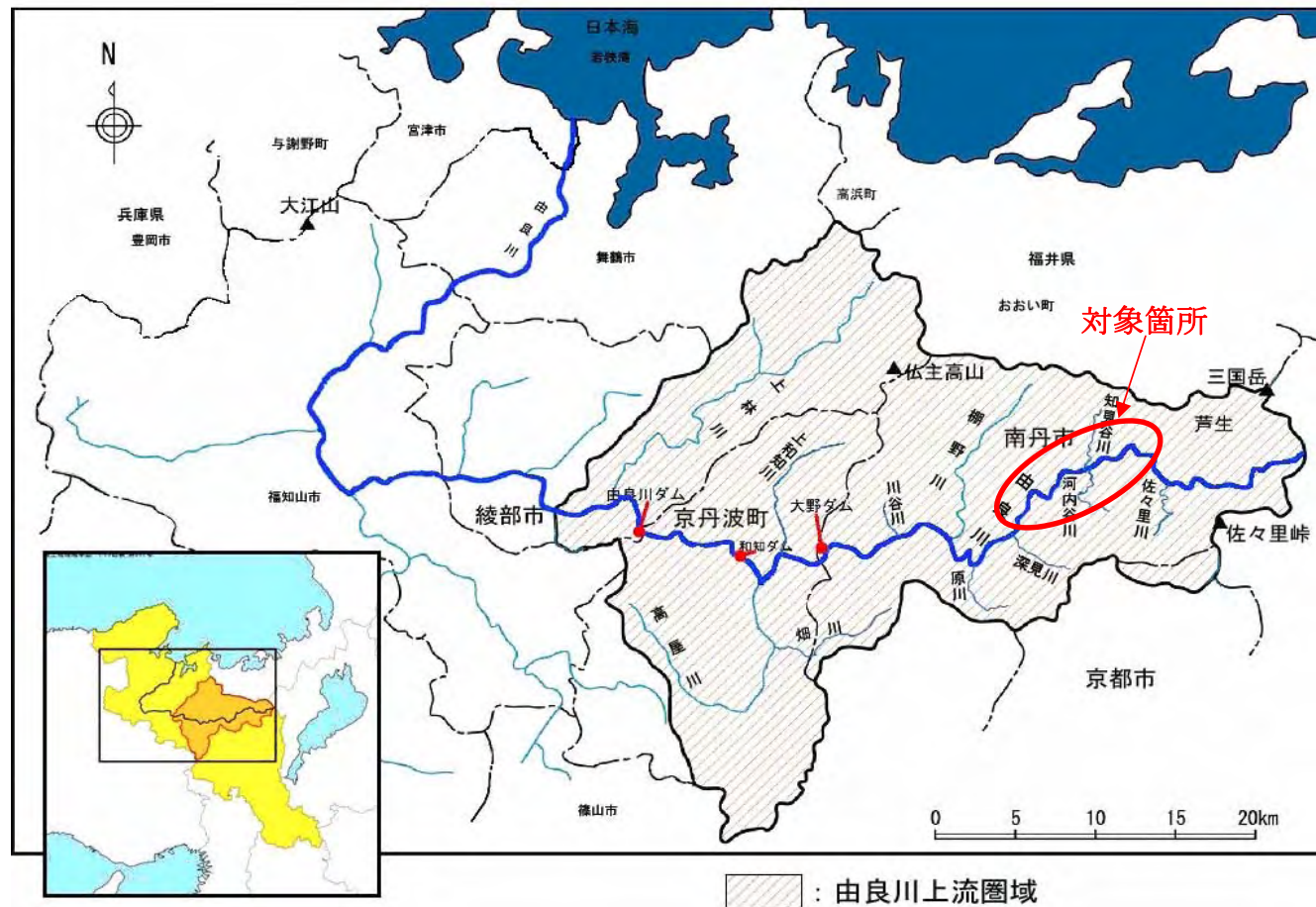


図1-1 位置図

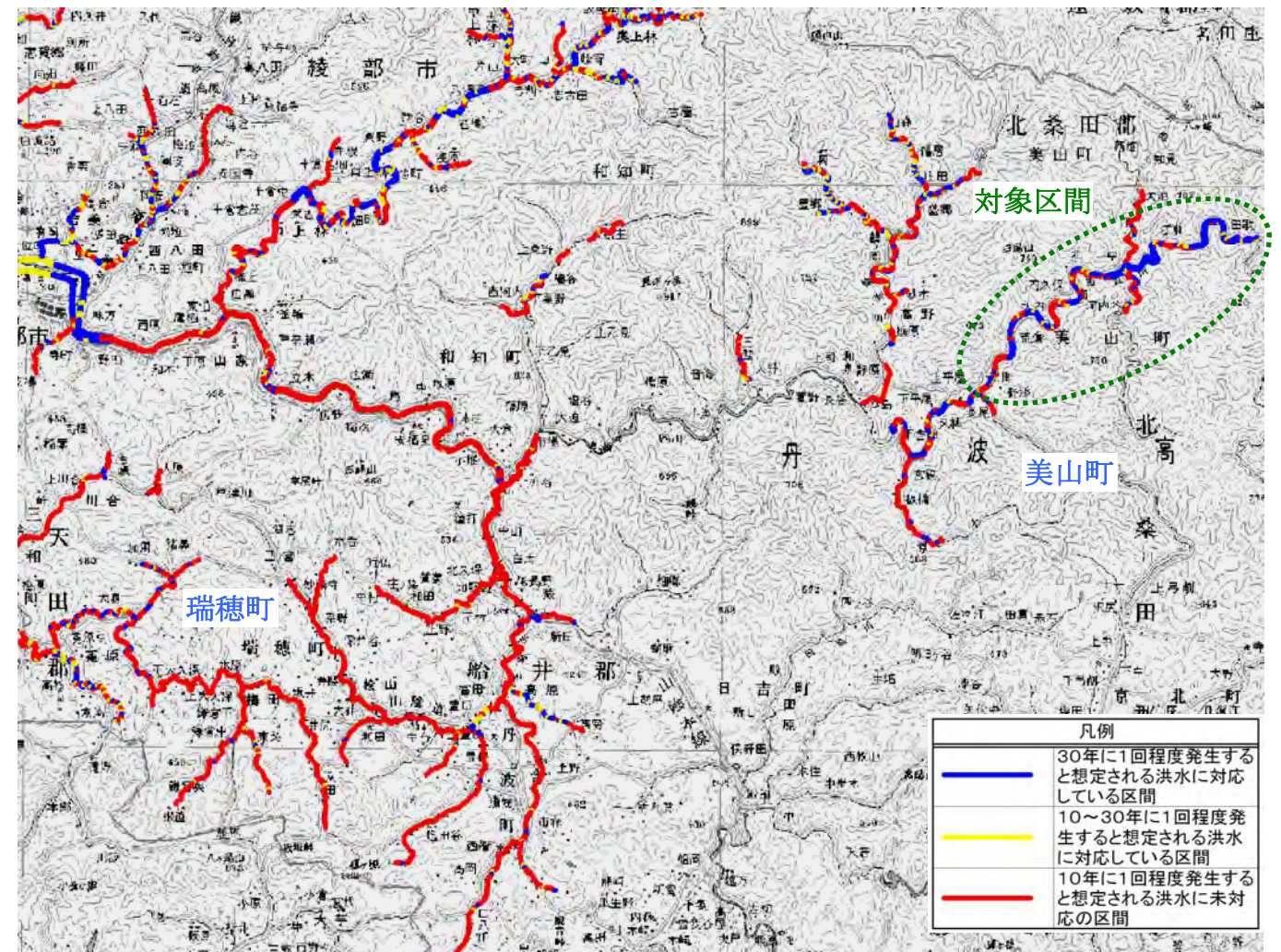
河川改修の経緯

由良川本川の本格的な改修事業は、戦後間もない昭和22年に直轄事業として着手され、綾部から福知山までの築堤・護岸工事を中心に進められた。

その後、昭和28年9月の台風13号出水に鑑み、昭和33年の総体計画や新河川法の施行に伴い昭和41年に策定された工事实施基本計画では、福知山地点での基本高水のピーク流量を6,500m³/sとし、上流の大野ダム（昭和36年完成。現在、京都府で管理）により900m³/sの洪水調節を行うこととされた。これらの計画にもとづき、福知山や綾部など中流部においては築堤工事や河道掘削がすすめられるとともに、福知山市内の内水対策として、支川改修や排水機場の整備が順次に行われた。また、下流部においては、低水路部の拡幅掘削工事が行われるとともに、平成2年より輪中堤整備や宅地嵩上げを行う水防災対策事業が開始された。現在、由良川水系河川整備基本方針（平成11年）、由良川水系河川整備計画（平成15年）に基づき、中流部の堤防整備と下流部の水防災対策が進められているところである。

一方、京都府が管理している本流域内の河川では、これまで河川災害復旧事業や河川局部改良事業などによる改修工事が順次行われてきた。

由良川本川（京都府管理区間）においては、昭和34年の伊勢湾台風による出水などを契機として、昭和35年度から37年度にかけて、疎通能力の低い南丹市美山町中地先において河川局部改良事業が実施された。また、上流域では、大規模な改修はこれまで行われていないが、山間部を流れる渓谷河川であり、下図に示すどおり他の河川と比べ治水安全度は比較的高い。



2. 美山川の概要

＜美山川周辺の特性＞

- 1) 美山川流域は、水と緑の豊かな自然環境に恵まれており、沿川にも美しい景観や手付かずの自然環境が多く保持されている。
- 2) 上流域には「芦生の原生林」をはじめ、上林川や上和知川の上流には国によって指定された学術上重要な特定植物群落もあり、自然豊かで貴重な植生が広がっているとともに、対象区域周辺（あしう・ちい・あかば 芦生・知井・安掛）は、日本の重要湿地（環境省）にも選定され、多様な溪流性の在来魚類が生息している。
- 3) 北地区にある「かやぶきの里」は、由良川北側の河岸段丘に形成された茅葺き屋根の家屋が多く点在する山村集落で、日本の原風景を今も伝える地区として、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、多くの観光客が訪れている。
- 4) また、「唐戸溪谷」、「蓮如の滝」、名のある瀬・淵など、自然の観光資源が多く存在する。
- 5) 美山川は、かつて「北大路魯山人」が絶賛した天然アユが遡上する河川として有名であった。下流のダム群建設後、天然アユは遡上できないものの、アユの放流が盛んに行われ、良好なアユの漁場として利用されている。
- 6) 平成14年度に行われた河川水辺の国勢調査や第2回自然環境保全基礎調査によれば、オヤニラミ、ズナガニゴイ、アカザ（ともに府絶滅危惧種）やアジメドジョウ（府絶滅寸前種）などの貴重な魚類のほか、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオをはじめ、ハコネサンショウウオ（府絶滅危惧種）やヒダサンショウウオ（府準絶滅危惧種）など貴重な両生類の生息が確認されている。
- 7) 河川の水質は、環境基準の類型指定がなされている由良川（大野ダム上流：AA類型、下流：A類型）、棚野川（A類型）、高屋川（A類型）、上林川（A類型）において環境基準をほぼ満足している。

＜美山川と人との関わり＞

- 1) 大野ダム貯水池周辺などにおいて、公園的な整備や利用がなされているものの、多くは豊かな自然環境の中で、アユ釣りやカヌー下りなど川との直接的な触れ合いを楽しむ利用がなされている。
- 2) 豊かな自然や茅葺きなどの日本の原風景とも言える優れた景観を有し、多くの観光客が訪れている。
- 3) 美山川のうち、比較的安全でアクセスしやすい場所については、小中学校の水泳場として利用されている。
- 4) 美山町では、経済団体、地域振興会、婦人会、老人クラブのような社会団体等の地域全体を網羅する「環境保全対策協議会」が組織され、美化活動、水質保全啓発、環境パトロール、不法投棄物の撤去などの活動に積極的に取り組まれている。

＜美山川への思い＞ ～アンケート調査結果から～

- 1) 美山川は、豊かな自然が残された美しい川であるとの共通認識
- 2) しかしながら、以前と比べると土砂の堆積をはじめ環境が悪化しているのではないかという意見や、この美しい川を次世代に引き継いでいくことが大切との意見も多く、河川環境の保全再生の必要性を感じている方々が多い
- 3) 一方で、川はできるだけ人の手を加えないとの意見も多く、河川環境の整備を進めるに当たっては、川は自然がつくるものでありそれを手伝えることを基本に、必要最小限の整備が望まれている。

（主な意見）

- ・きれいで自然な川
- ・良い川なので、現在のアユの生息する環境を残してほしい
- ・河川環境が悪化しているように感じる
- ・せめて5～6年前の川の状態にしていきたい
- ・自然のまま、美しい川にしていってほしい
- ・川はあまり手を入れないほうがよい
- ・できるだけ自然のままがよい 等々（詳細は別紙アンケート結果参照）

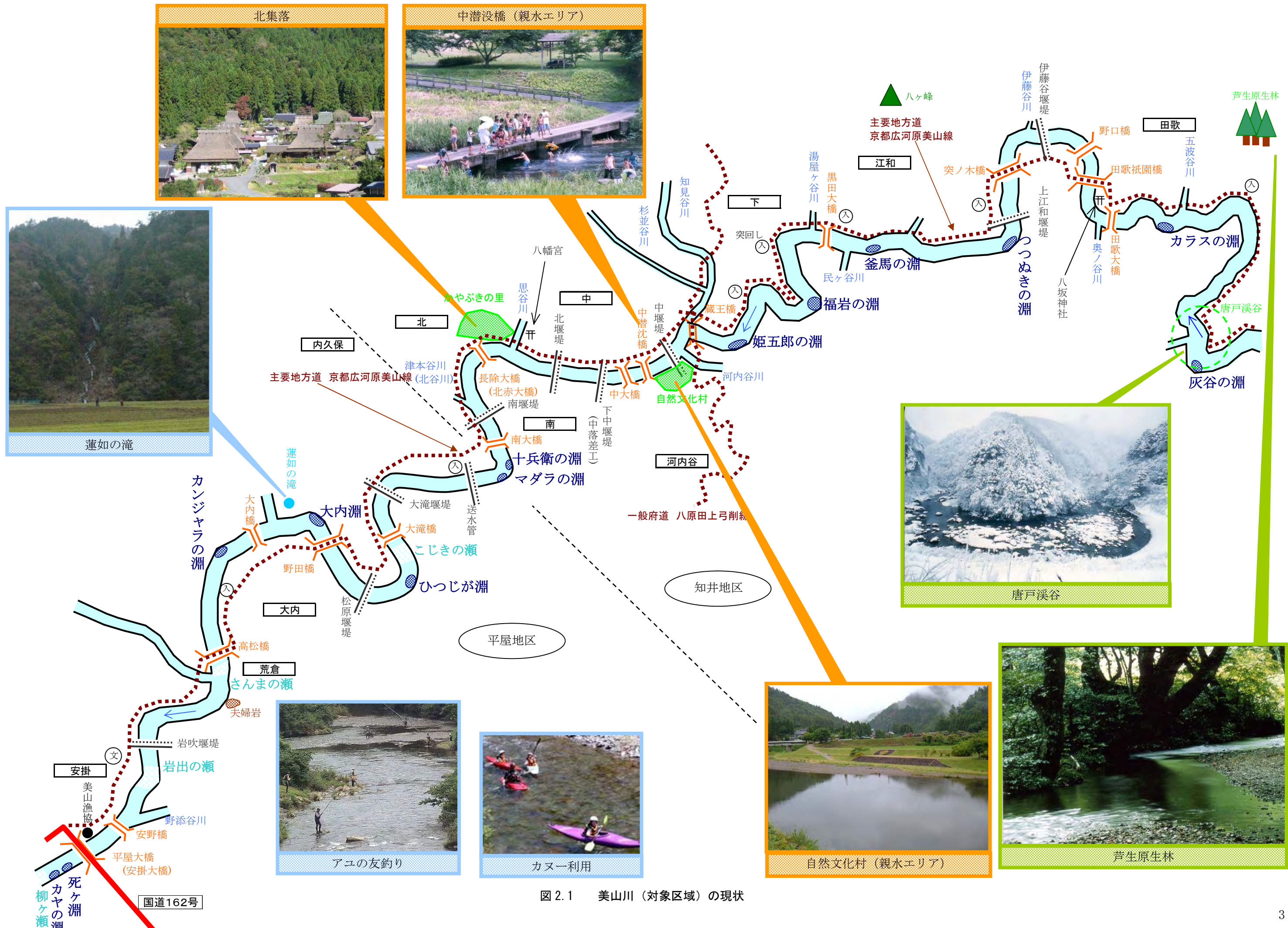


図 2.1 美山川 (対象区域) の現状

3. 美山川の現状の課題

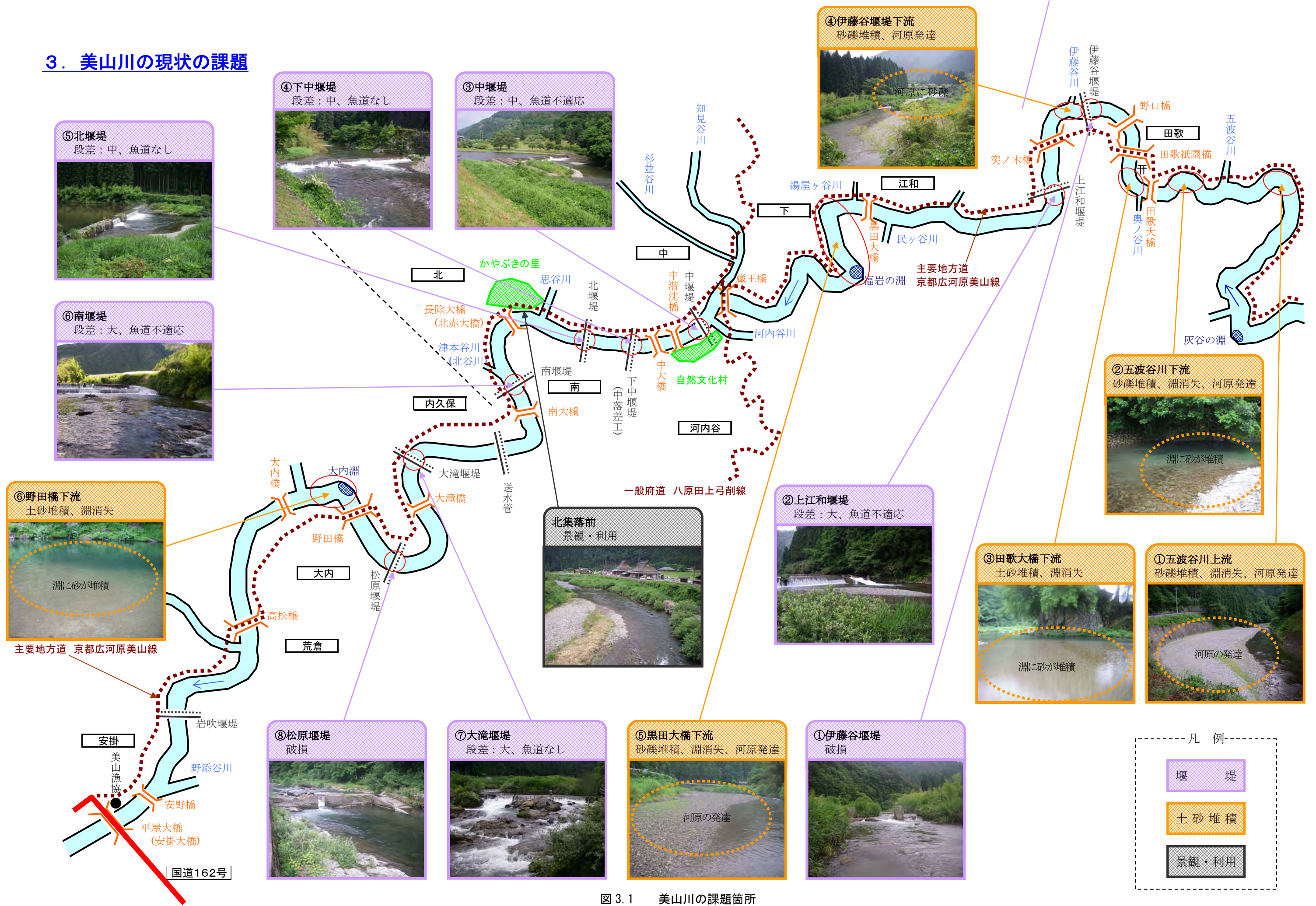


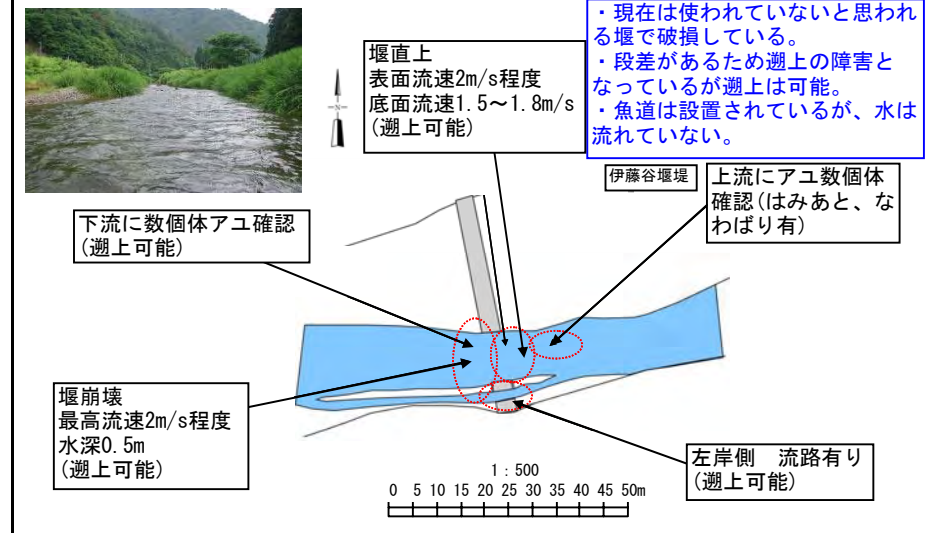
図 3.1 美山川の課題箇所

表 3.1 美山川の課題箇所の概要

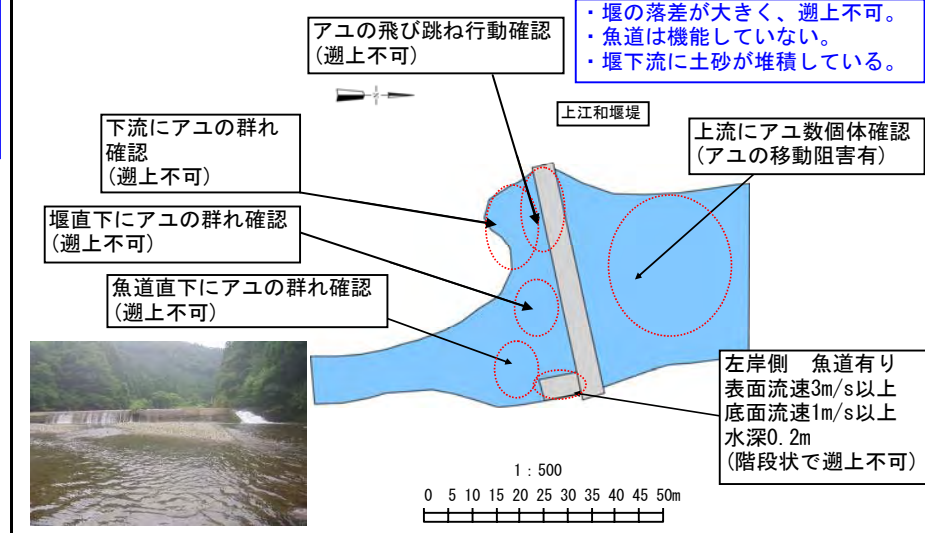
＜落差工＞										
No.	名称	位置	下流地点からの距離(km)	平屋大橋からの距離(km)	区分	管理者	落差(m)	取水	魚道	課題
1	伊藤谷堰堤	田歌(伊藤谷川上流)	0.1	14.0	取水堰(破損)	黒田用水組合	約0.5	無	有(左岸:階段式)	現在は使われていないと思われる堰で破損している。段差があるため遡上の障害となっているが遡上は可能。魚道は設置されているが、水は流れていない。
2	上江和堰堤(突ノ木堰堤)	江和(突ノ木橋下流)	2.2	13.2	取水堰	前田用水組合	約1.5	有(右岸)	有(左岸:斜路式) 角落し(右岸2箇所)	堰の落差が大きく、遡上不可。魚道は機能していない。堰下流に土砂が堆積している。
3	中堰堤	中(河内谷川下流)	0.5	9.0	取水堰	北・上ヶ城用水組合	約1.0	有(右岸)	有(中央右:階段式) (中央左:斜路式) 角落し(左岸1箇所)	魚道は設置されているが、平常時は水量が少なく遡上不可。出水時など水量増加時には遡上可能。突出型のため遡上魚は魚道入口を見つけられず堰直下流に迷入している。
4	下中堰堤(中落差工)	中(中大橋下流)	0.2	8.5	取水堰	南前田用水組合	約1.0	有(左岸) [現在不使用]	無 角落し(中央2箇所)	現在は使われていないと思われる堰で遡上不可。魚道が無く遡上が困難である。
5	北堰堤	北(北赤大橋上流)	1.4	8.3	床固め(河川用)	河川管理者(京都府)	約1.0	無	無	河床安定のための床固め。魚道が無く遡上困難である。
6	南堰堤	南(北谷川下流)	0.6	6.9	取水堰(農業用)	内久保水利組合	約2.0	有(右岸)	有(左岸:階段式) 角落し(左右2箇所)	堰本体および水叩きに大きな段差があり、遡上不可である。既設魚道は機能していない。
7	大滝堰堤	内久保(大滝橋上流)	1.2	5.5	取水堰	大内荒倉農業用水利用組合	約2.0	有(左岸)	無	堰の落差が大きく、魚道もないため、遡上困難である。
8	松原堰堤	大内(大滝橋下流)	0.8	4.3	取水堰(破損)	安掛上平屋かんがい用水組合	約1.0	無	有(左岸:斜路式) スリット(中央1箇所)	現在は使われていないと思われる堰で破損している。スリット部の流速が速く、下流側に魚が滞留している。既設魚道に水は流れていない。
＜土砂堆積＞										
No.	名称	位置	下流地点からの距離(km)	平屋大橋からの距離(km)	状況	課題				
1	五波谷川上流湾曲部	田歌	0.9	16.2	砂礫堆積、淵消失、河原の発達による段差形成。	土砂、砂礫の堆積により、河原が発達し、淵が消失している。アユ等の生息場所が減少。アユの生息数も少ない。				
2	五波谷川下流湾曲部(カラスの淵)	田歌	0.5	15.3	砂礫堆積、淵消失、河原の発達。					
3	田歌大橋下流湾曲部	田歌	0.8	14.8	土砂堆積、淵消失。					
4	伊藤谷堰堤下流部	田歌	0.7	13.9	砂礫堆積、河原の発達。	土砂堆積により、河原が丘状に発達して雑草が繁茂し、水辺が減少している。				
5	黒田大橋下流湾曲部	江和	2.0	11.0	砂礫堆積、淵消失、河原の発達。	砂礫の堆積により、河原が発達し、淵が消失している。				
6	野田橋下流湾曲部(大内淵)	大内	2.5	3.5	土砂堆積、淵消失。	土砂の堆積により、淵が消失している。アユ等の生息場所が減少。アユの生息数も少ない。				

● 堰堤下流潜水調査結果

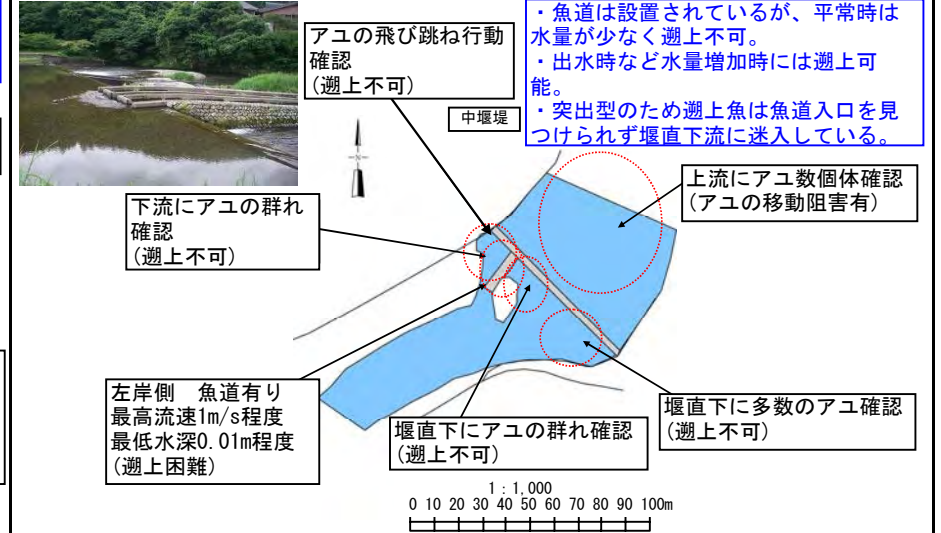
① 伊藤谷堰堤



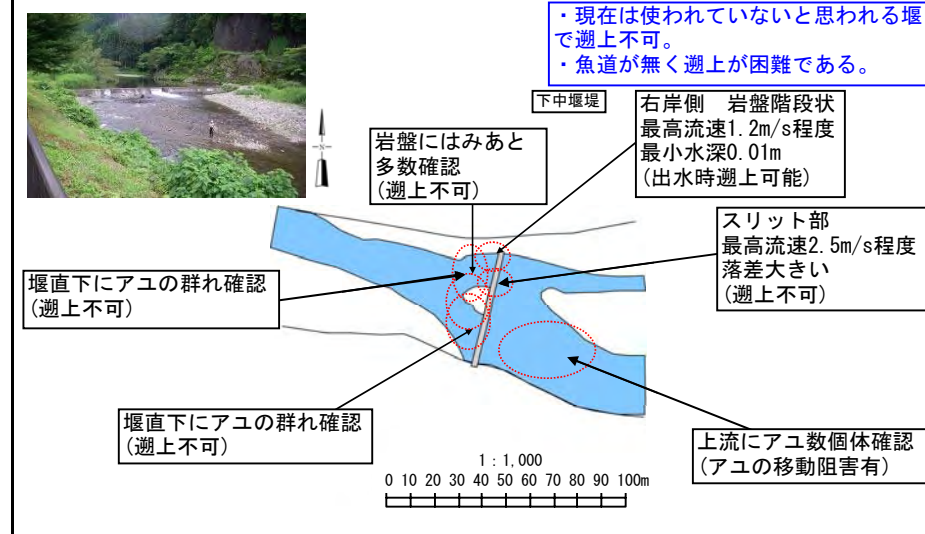
② 上江和堰堤



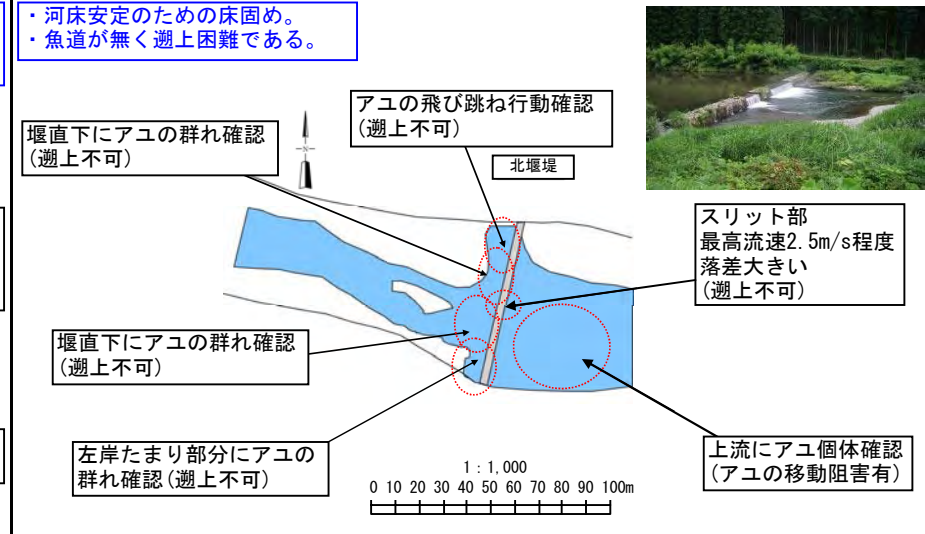
③ 中堰堤



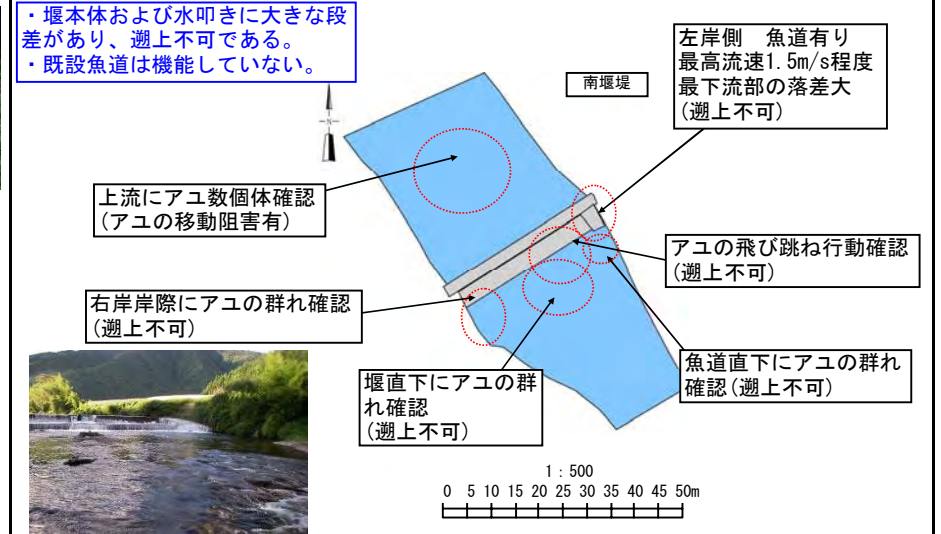
④ 下中堰堤



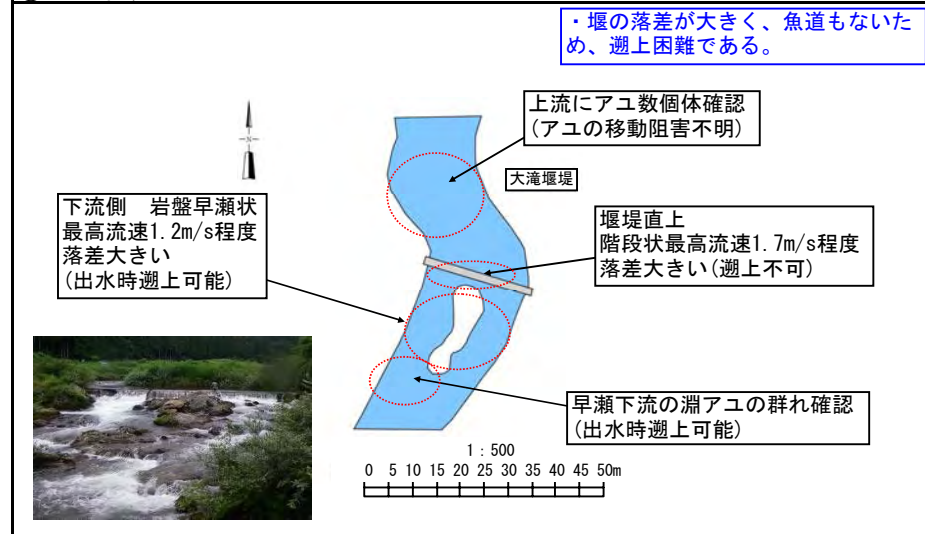
⑤ 北堰堤



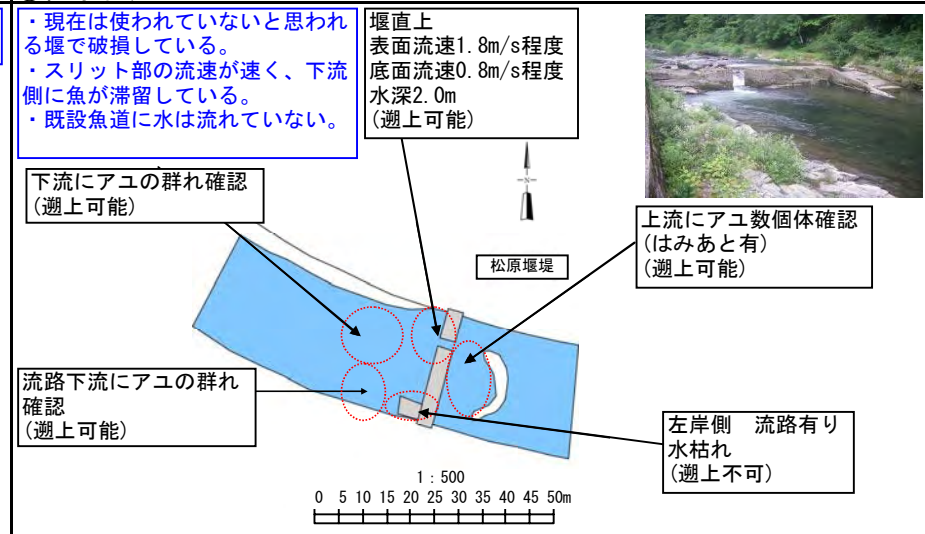
⑥ 南堰堤



⑦ 大滝堰堤



⑧ 松原堰堤



堰堤検討

魚道No.	堰堤名称	魚道有無	遡上可否		現状評価	対策検討
			堰堤	魚道		
1	伊藤谷堰堤	○	○	×	△	堰部分撤去
2	上江和堰堤	○	×	×	×	魚道改築・設置
3	中堰堤	○	×	△(出水)	×	魚道改築・設置
4	下中堰堤	×	△(出水)	×	×	魚道設置
5	北堰堤	×	×	×	×	魚道設置
6	南堰堤	○	×	×	×	魚道改築・設置
7	大滝堰堤	×	△(出水)	×	×	魚道設置
8	松原堰堤	○	○	×	△	堰部分撤去